



～JETプログラム活用の巻～

グローバル人材育成事業

岩手県政策地域部NPO・文化国際課主任主査 阿部 博

復興途上にある岩手県

東日本大震災津波の発災から間もなく3年がたとうとしています。太平洋に面する岩手県では多数の尊い命が犠牲になり、現在も多くの方々が応急仮設住宅などで不便な暮らしを強いられるなど、一日も早い復興が望まれているところです。発災直後から現在に至るまで、国内のみならず海外からも多くのご支援をいただいておりますことにあらためて感謝申し上げますとともに、復興までには長い時間を要することから、息の長いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本県では、震災直後の2011年6月、平泉の文化遺産がユネスコ世界遺産に登録され、国内外から大きな注目を集めました。また、2013年8月には、世界でただ1か所のみ建設が予定されている素粒子実験施設「国際リニアコライダー (ILC)」の国内建設候補地として、本県の北上山地が選定されるなど、復興支援を通じた海外との関わりの深化と相まって、グローバルな話題が増えています。

本県CIRの業務

本県では政策地域部NPO・文化国際課にCIRを配置して、グローバル化が進む県庁業務への対応や多文化共生の推進に取り組んでいます。CIRは1987年度から配置しており、地域における国際化の推進に大きな役割を果たしています。

現在、本県で活躍しているCIRは、アマング・クリプス（米国出身。以下、アマングCIR）、宮静（中国出身）、イアン・サトル（アイルランド出身）の3人です。彼らは、海外要人との面談な

どに係る通訳業務や海外向け広報等の翻訳業務、自国の文化を園児、小学生を含む県民に紹介する多文化共生業務に携わっています。とくに公益財団法人岩手県国際交流協会や県内市町村の国際交流協会と連携して実施する事業は休日に行われることが多く、また、2013年度においては、県庁業務のグローバル化の進展に伴い通訳・翻訳業務が昨年度と比較して急増するなど、多忙な日々を過ごしています。

さらに、ILC研究者グループによる現地視察への対応や、2013年11月に友好協力協定を締結した中国雲南省幹部との会談における通訳、2010年度に県が策定した「岩手県多文化共生推進プラン」に基づく交流機会づくりなど、本県CIRは、県政の重要課題の推進に欠かせない存在となっています。このほか、業務の合間を縫って、職員向けの語学教室も開催しています。

いわてグローバル人材育成事業でCIRが活躍

さまざまな分野の行政課題に対応する本県CIRですが、今回は今年度、アマングCIRが携わった「いわてグローバル人材育成事業（高校生米国派遣事業）」の事例を紹介します。

本県は、前述のとおり、東日本大震災津波以降、海外から一段と注目されており、また震災復興支援を通じて海外との新たな交流が生まれています。また、グローバル化の進展により、経済、教育、文化などさまざまな分野で海外との関係を深めていくための人材を育成する必要があります。

このような背景を踏まえ、本事業では、震災に

よって生まれた海外とのつながりなどを活用しながら、本県から世界に通用する人材を育成するためのパイロット事業として、高校生が現地研修や県主催情報発信事業に参加しました。この事業を通じて高校生には世界の広さ、多様な考え方や文化に対する理解を深め、将来自らが活躍する舞台を考える機会となることを期待しています。



情報発信事業で来場者を出迎える派遣高校生

【いわてグローバル人材育成事業の概要】

派遣先
アメリカ合衆国 (ニューヨーク州、ワシントンD.C.、メリーランド州)
実施期間
2013年8月21日(水)～2013年8月31日(土) 11日間(米国滞在9日間)
派遣人数
岩手県内の高等学校に在学する高校生10人 (高校から推薦を受け選定)
引率者
岩手県政策地域部NPO・文化国際課 職員1人、 アマンダCIR 岩手県教育委員会事務局学校教育室 職員1人 計3人
主な日程
8/21(水)～8/22(木) 移動日 (岩手→成田：泊、成田→ニューヨーク)
8/23(金) NY市内研修
8/24(土) NY市内研修(911メモリアル等：知事と同行)
8/25(日) 知事・県議会議長との懇談会、NY岩手県人会との懇談会
8/26(月) 国連日本政府代表部等訪問、県主催情報発信事業参加
8/27(火) ワシントンD.C.へ移動、米日カウンシル訪問・現地学生との交流
8/28(水) ワシントンD.C.市内研修
8/29(木) メリーランド州ブーンズボロー高校との交流
8/30(金)～8/31(土) 移動日 (ワシントンD.C.→機内泊→成田→岩手)

アマンダCIRには、研修プログラムの企画や現地訪問先との調整のほか、ニューヨークに近接するニュージャージー州の出身という利点を生かし、地元で評判のレストランの予約も行ってもらいました。

また、出発前に行ったオリエンテーションにおける米国の生活習慣などの紹介、現地でのアテンド、ニューヨークでの復興支援への感謝と復興の取り組みを発信する事業“トモダチでありがとう～東日本大震災津波岩手県復興報告～”での知事プレゼンの発音チェックなど、多岐にわたる準備を行うことで、各事業は円滑に進みました。

さらに、派遣した高校生は、米国同時多発テロに関する直接的な体験・記憶がないため、911メモリアルの視察では、テロ発生時のアマンダCIR自身のエピソードや911以降の米国の変化などを伝えることで、テロを乗り越えて復興する米国の姿と復興途上にある本県の状況を重ね合わせて感じてもらうことができ、米国出身のCIRが携わったことによる大きな成果があったと言えます。

来年度以降の派遣事業の実施は未定ですが、岩手県では、今後もCIRのスキルが十分発揮できるような環境づくりに取り組みながら、急速に進展するグローバル化への的確な対応を行い、復興を加速して参ります。



911メモリアルで体験を語るアマンダCIR

なお、情報発信事業については、クレアホームページでもご紹介いただいています。

- ・海外事情最新レポート「岩手県知事が復興支援感謝イベントをニューヨークで開催」

http://www.clair.or.jp/j/forum/c_mailmagazine/201310_2/6-1.pdf